

## 自立を見据えた スモールステップの学級づくり

春日井学力研 堀井 克也

### 考えて動くって、難しい

「自立を見据えた学級・学力・授業づくり」というテーマを伺ったとき、昔ある教室に「考動」なる書が貼ってあったことを思い出しました。担任の先生に聞くと「考えて、動く」の意とのことでした。

「でも、なかなか子どももって自ら考えて行動しようとしないうですよね。」「わかりますわかります。いわゆる指示待ち人間になっちゃってますからね。」  
当時の私はそんな風に愚痴っていました。が、今ふり返ると教師としてあるまじき姿勢であったと反省させられます。指導していいことは評価してはいけないのが原則です。当時の自分はせいぜい自由に係活動をする時間を設けてあげる、程度のことしかしておりませんでした。また、教師として自分自身がよく「考動」していたわけでもなく、まさに指示待ち人間でした。

### 自立へのスモールステップ

「自立」ということを、「自ら考え、行動を自己決定できること」と考えるならば、子どもが「自ら考え、行動を自己決定する場」を教師が意図的に設けていくことが必要なのではないかと考えます。

そして、ここにスモールステップの考え方をとり入れてみます。子どもが初めて取り組む課題において、子どもに考えさせ、行動を自己決定させるのはかなりハードルが高いのではないのでしょうか。やるべき仕事が多ければあるかわかっていて、仕事のやり方も大体わかっている、あとは誰が何をやるかだけがハッキリしていないような課題を設定し、その中から「どの仕事をやるか」だけを自己決定させてみるのはどうだろうか…。

そんなことを考えていた時、最初に思いついたのが給食当番のやり方でした。

### 給食当番の仕事を、自己決定させる

普通、給食当番というと教師が全面的に仕切り、誰が何をするのかをきっちり決めて取り組ませるものだと思います。私自身もずっとそうしていました。

しかし、そのやり方を続けていて、こんな子どもの姿が見られるのが気になりました。例えば、配ぜん台を担当の子が並べるのを、食缶片手にポーッと見ている子。自分の仕事が終わったら白衣を脱ぎ始める子。何とかせねば、と思っていました。

そこである日、子どもたちの前で給食当番表を捨ててしまいました。驚く子どもたちに、自ら考え、行動できる子に育ってほしいから、これからは誰が何をやるかは予め決めずに給食当番をやってみないかと提案します。子どもたちは、面白そうだと興味を示しますが、少し不安そうでもありません。そこでまず、給食当番の仕事の中でも、優先順位の高いものは何かについて話し合わせました。

「味噌汁とかシチューみたいなおかずは、よそつのに時間がかかるよ。」「でも、配ぜん台が出ていなかったら、できないでし

よ。「牛乳は一階から運んでくるから早めに取りに行かないと。」「たまにあるデザートは、誰が持つてくればいいんだろ。」

子どもは予想以上に意欲的に話し合っていました。やはり、どの子ども仕事のイメージができていたからでしょう。話し合いの結果、優先順位の高い仕事を「配ぜん台」「牛乳」「ワゴン運び」と決め、早く白衣に着替えた子はこれから始めることになりました。そして、残りの子どもはその場の状況に応じてやるべきことを見つけ、仕事をすることになりました。

### 自己決定させると、意外なことが

やり方を変えたその日、真っ先に白衣に着替えた子がワゴンを運びに行き、次の子が牛乳を取りに行き、さらに次の子が配ぜん台を並べて拭きました。優先順位が高い仕事だと分かったからか、いつもより張り切っています。一方、残った子どもは何をしてもいいのかわからず、ワゴンを運んだ子が食缶を配ぜん台に乗せた後も、ただ見ているだけでした。「先生、これってやっぱりいけないんだよね。」と聞いてくる子までいました。私は何も言わず、見ていました。

いつもよりずつと時間がかかりました。

しかし、二日、三日と続けていくと、子どもたちは慣れていき、スムーズに仕事に取り組めるようになっていきました。

教師に決められた仕事ではなく、自分で必要だと考えて選んだ仕事だからでしょうか、こちらが思ってもみなかったような子どもたちの姿がいくつも見られました。

いつも最後に白衣に着替えてのんびり仕事をしていたT君は、テキパキと仕事をすすめるようになって、「先生、今日は昨日より四分も早く終わったよ。」と報告してくれました。自分の仕事が終わると他の子がまだ仕事をしても白衣を脱いでいたHさんは、人手が足りていないところを探して手伝うようになりました。全体として見ると、子ども同士がよくコミュニケーションをとるようになりました。「ちよつとこつちを手伝って。」「デザートはもう取りに行っているかな。」「うごんはすぐ終わるから、二人でやらなくてもいいと思うよ。」などと声を掛け合いながら、仕事をしています。

今後、好きなことばかりやろうとする子や、仲良しの子と一緒にやろうとする子が

現れてくるといった課題も出てくるでしょうが、その都度本来の考え方に立ち返らせて、解決していきたいと考えています。

### 他の活動でも…

給食当番以外に、掃除当番でも自立を見据えた取り組みを行っています。担当場所を決めたら、最初の日はその場所まで行って、どんな仕事か何人ずつ必要か…といったことを相談させます。仕事の振り分けはリーダーが行いますが、他の子どももリーダーに意見を言うことができます。毎日仕事をしているうちに、足りていない部分に気付いたらその都度話し合いの場を設けさせるようにしています。こうした方法を採るようになってから、子どもは以前よりも意欲的に仕事に取り組むようになってきました。よく、子どもにこんな話をしています。「誰かがやらなければならないことなのに、誰がやるかが決まっていけないようなことが、世の中にはたくさんあります。それを自分の仕事だと思えるような人が多くなればなるほど、素晴らしいクラスになりますよ。」  
本当の自立への道のりはまだまだ遠いですが、歩き始めてはいると思います。